

令和4年度 川内中学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価 評価指数と活動計画	評価 評価指数の達成度	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
1 学習指導 確かな学力の育成	①学習規律の確立を図る。 ②基礎的基本的な学習基盤の確立を図る。 ③課題解決につながる思考力判断力、表現力の育成を目指した授業改善を図る。 ④主体的に学習する習慣、家庭学習の充実を図る。	評価指数 ①-1 生徒 「授業準備をして着席している」 ①-2 生徒 「提出物を確実にだせている」 ②-1 生徒 「授業の内容が理解できている」 ②-2 教師 「学習の遅れがちな生徒に適切な支援をしている」 ②-3 保護者 「生徒の学力向上に向けて熱心に取り組んでいる」 ③-1 教師 「めあてを示し振り返りの時間を確保している」 ③-2 生徒 「先生はよく分かる授業を実践してくれる」 ③-3 教師 「生徒の理解を深めたり、協働的な学びをするために1人1台タブレット端末を活用している」 ③-4 教師 「基礎・基本を身に付けさせ、思考力等を育成するため授業改善に努めている」 ③-5 生徒 「自分の考えを説明したり、発表したりしている」 ③-6 教師 「学習意欲の高い生徒に発展的な指導をしている」 ③-7 教師 「授業で話し合い活動を取り入れ、対話力や合意形成の力を育成している」 ④-1 生徒 「自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる」 ④-2 生徒 「宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている」 ④-3 保護者 「家庭学習の習慣が身に付いている」	評価指数の達成度 ①-1 A (94%) ①-2 A (91%) ②-1 A (89%) ②-2 B (72%) ②-3 B (84%) ③-1 A (97%) ③-2 A (91%) ③-3 C (66%) ③-4 A (100%) ③-5 C (60%) ③-6 C (58%) ③-7 B (81%) ④-1 B (83%) ④-2 C (68%) ④-3 C (68%)	(評定) B (所見) 学習規律については、生徒の主体性を前面に引き続き取り組む。 校内研修やメンター研修にてICTの効果的な活用について研修し、取り組む。 各教科の学びと特別活動での学びが往還できるよう主体的・対話的な授業を工夫する。 家庭学習の内容や量を検討し、生徒の主体的な家庭学習を支援する。 キャリア教育と結び付けて学ぶ楽しさを感じさせる。 各教科の学びと特別活動での学びが往還できるよう主体的・対話的な授業を工夫する。 家庭学習の内容や量を検討し、生徒の主体的な家庭学習を支援する。 キャリア教育と結び付けて学ぶ楽しさを感じさせる。	・学力の育成のための取組が工夫され、よくできている。生徒が自分の考えを説明したり、発表するところの難しさは自覚するところだと思いが、ぜひ、その分野の課題に取り組んでいただきたい。 ・教師の指導力向上のために学校全体で取り組んでいることがわかった。今後も継続してほしい。 ・読み、書き、算盤に加え外国語+情報処理能力やコミュニケーション能力等は、今後の社会生活を考えたときに重要なものだと思うがそれらの基になる言語に関する力の習得は、特に大事なものである。その意味からすると「鳴潮」の視写、音読等は今後とも続けてほしい。 ・コロナ感染症が終息しないなか、生徒の健康と安全に配慮しながら今後も取り組んでほしい。職員研修の中身の濃い研修には感心させられた。全体の力が向上し、指導がさらに充実することを期待している。 ・家庭学習の重要性を保護者の方々にもっと理解してほしいと感じている。主体は家庭である。全てを学校に依存するのはどうだろうかと思う。
		活動計画 ①学校全体・全教職員で授業に臨む基本的姿勢の確立「チャーム着席」「授業の準備物」「正しい姿勢」「授業に集中」「授業のルール10か条」を掲示するなど可視化し、徹底する。 ②生きて働く知識・技能を身に付ける。 ②-1 定期テストで基礎基本の問題で確認する。 ②-2 読書への興味や読書習慣を身に付けるために、本の紹介を取り入れたり、冊数調べをする。 ②-3 徳島新聞「鳴潮」の視写を週1回行い、読む力、書く力を身に付ける。 ②-4 各教科で教科書を読むなど、音読を取り入れ、聞く力、話す力を身に付ける。 ③授業改善「わかる授業」のために見通しのある工夫した授業の展開 ③-1 「目標の明示」「課題解決のための学習活動」「振り返り」 ③-2 ICT等、学習効果のある工夫と授業改善 ③-3 徳島県学力向上プリントの計画的な活用、プラス1課題の実践 ③-4 各教科で取り組む一点突破の学力向上方策 ④テスト前に「学習記録表」にて目標を設定し学習状況を記録する。	活動計画の実施状況 ・学習規律への取組を全校あげて取り組んだ。 ・ポジティブな行動支援の「3つの大切」は生徒会が作成し、全校で取り組んだ。 ・学力向上プリントやプラス1課題は計画的にできた。 ・週1回の鳴潮の視写を全学年で取り組めた。 ・1人1台タブレット端末を授業で活用したが、教科によって温度差が見られる。 ・学習評価の研修を行い、職員へ共通理解が図られ、授業改善が進められている。		
2 道徳・人権教育 差別を見抜き許さない姿勢、不当な差別に立ち向かう行動力の育成	①言葉を大切にし、礼儀正しい態度を育成する。 ②自他の人権を尊重しようとする人権感覚を育成し、いじめや差別を許さない人権意識と自己肯定感を育む。	評価指数 ①-1 教師 「生徒の礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を常に心がけている」 ①-2 教師 「生徒の人格を尊重し、言葉を大切にして生徒を指導したり、接したりしている」 ②-1 教師 「発達段階や生活背景を理解し、人権教育の推進に努めている」 ②-2 生徒 「いじめや暴力を受けている人を見たら助けようと心がけている」 ②-3 教師 「いじめや他の問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」 ②-4 保護者 「いじめや暴力のない学校づくりに努めている」	評価指数の達成度 ①-1 A (97%) ①-2 A (97%) ②-1 A (100%) ②-2 A (87%) ②-3 B (100%) ②-4 B (84%)	(評定) A (所見) 生徒がSNSの使い方を振り返り、考えることができる場を設定する。 外部講師によるSNSの使い方等を指導する。 困ったことがあれば学級担任や部活動の顧問に相談できる信頼関係を構築する。	・礼儀、マナー等の指導を心がけていることが、お互いの尊重につながり川内中の校風を作り出している。 ・人権教育のレベルの高さ、熱心な取組を評価する。施設や里親等、家庭や生活の状況の違いを理解、尊重し、共に地域の仲間として育ち合う教育を今後とも願います。 ・今後、SNSに対する問題は益々深刻になってくるのが想定されている。機会があるごとに指導をするほうがよい。一人で悩むことのないよう生徒との信頼関係は構築しておきたい。
		活動計画 ①全教育活動を通して礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ②年間指導計画を見直し人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ②-1 研究授業の充実 ②-2 道徳教育の推進・充実 ②-3 人権教育の推進・充実	活動計画の実施状況 ・礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導した。 ・学年人権集会や人権学習を通して、人権意識の育成に努めた。		
3 健康・安全指導 心身の健やかな発育と自らの健康の保持増進に取り組む力の育成	①食育を推進し、基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②生徒会による「自転車運転免許制度」を活用し、交通マナーの向上に努める。 ③防災学習や避難訓練の充実を図り、地域と連携した学校防災の意識を高める。	評価指数 ①-1 生徒 「毎日、朝食を食べている」 ①-2 保護者 「毎日、朝食を食べている」 ①-3 生徒 「毎日、十分睡眠がとれている」 ①-4 保護者 「夜更かしをせず早寝早起きをしている」 ②-1 生徒 「交通ルールを守り、登下校している」 ③-1 教師 「安全教育や防災教育の意義を知り、生徒の安全のために取り組んでいる」 ③-2 生徒 「避難訓練や防災学習に真剣に取り組んでいる」	評価指数の達成度 ①-1 A (91%) ①-2 A (93%) ①-3 B (77%) ①-4 C (57%) ②-1 A (96%) ③-1 A (100%) ③-2 A (93%)	(評定) B (所見) 食育や交通指導は継続して実践し効果がみられた。特別活動を工夫し、さらに自己肯定感が高まるようにする。 パソコンや携帯	・防災教育が大切である。 ・早寝早起きなどの生活習慣は家庭教育の課題だが、生活リズム点検表などは効果がある取組だと思う。 ・人は舞台で育つと言われるが、その舞台を造るのも人である。その舞台を造り準備するのが教育である。ワクワクするような様々な活動内容やその機会を準備・設定し、是非とも生徒たちを舞台に上げてほしい。きっと生徒たちは大きく成長
		活動計画 ①食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。 ②交通指導計画に基づき、交通指導を徹底する。自転車通学生のマ	活動計画の実施状況 ・食育アンケートを実施し、実態を把握した。食育掲示板の充実や郷土料理出前授業を実施した。 ・JNKの規定の見直し(部活動特別		

		<p>ナーの遵守 交通安全教室を実施する。自転車特別許可について指導や見直しを行う。</p> <p>③避難訓練では南海トラフ地震の対応を行う。授業中、休み時間、部活中など 様々な場面を想定し訓練する。防災委員会による生徒の主体的な活動を行う。</p>	<p>許可)を図った。</p> <p>・避難訓練を2回実施した。部活動中の避難やアクションカードの活用を進める必要がある。</p>	<p>電話の使い方を家庭と連携し、指導する必要がある。</p> <p>避難訓練を地域やPTAと連携して実施する。</p>	<p>することでしょう。</p> <p>・朝食を摂取する確率が高いことはとても嬉しく、地域も安定している。命を守る教育は地域とともにこれからも進めていきたいと思います。</p>	<p>・部活動の移動の交通マナーの遵守</p> <p>・交通事故ゼロ宣言</p> <p>・保健体育保健分野では学級別に授業をし、性教育の充実</p>
4 生徒指導 生徒を認め、寄り添い、褒めて育てる生徒指導	<p>①「ルールを守る」「物を大切にする」「他者を尊重する」等の基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。</p> <p>②常に自分の心と向き合い、自分で正しく判断できる生徒を育てる。</p> <p>③あいさつを励行する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒 「学校へ来るのが楽しい」</p> <p>①-2 保護者 「学校へ行くことを楽しみにしている」</p> <p>①-3 生徒 「自分の机やロッカーの中の整理整頓を心がけている」</p> <p>①-4 保護者 「学校は規則遵守に適切な指導を継続している」</p> <p>②-1 生徒 「学級で話合う活動を通じて考えを深めたり広げたりできる」</p> <p>③-1 生徒 「授業の始めと終わりや校内外であいさつができる」</p> <p>活動計画</p> <p>①学級生活や係活動・委員会活動を通して、当たり前前のことが当たり前前にできるよう指導する。</p> <p>②学期に1回生活アンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに、生徒指導委員会を通して、生徒の把握や情報の共有化を図る。</p> <p>③登下校の際、教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。授業の始め、終わりの挨拶を丁寧にする。「ありがとうございました」→「礼」を意識化</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (88%)</p> <p>①-2 A (85%)</p> <p>①-3 A (85%)</p> <p>①-4 A (90%)</p> <p>②-1 B (80%)</p> <p>③-1 A (89%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・全学級で学級目標を決め、方策を考えたり、学級会を行ったりした。委員会活動が活性化した。</p> <p>・生活アンケートは3回実施した。</p> <p>・生徒指導委員会を必要に応じて開催し、不登校、問題行動等のある生徒について共通理解を図った。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>不登校になる前の予防や初期対応を適切に行い、生徒や保護者にきめ細かく丁寧に寄り添う。</p>	<p>・落ち着いたある学校が実現できていると思う。これも先生方が一人一人の生徒のことを理解し、指導しているからだと思う。</p> <p>・不登校の対応はとても難しいと思うが、登校以外にも本人の悩みの解決方法があるかもしれない。幅広い支援の連携ができるとよい。</p> <p>・基本的な生活習慣は強調されるものではなく、集団又は、一人との人として当然だ。生徒が生活の中であたり前のように身に付けてくれたらと思う。学校が楽しく思うことは素晴らしい。</p>	<p>・教師が一人一人の生徒を大切にし、悩みに耳を傾け寄り添う姿勢の確立</p> <p>・清掃活動、ボランティア活動による自尊感情、自己肯定感の育成</p> <p>・年3回の学校生活アンケートや日記による生徒の訴えに迅速な対応</p> <p>・不登校生徒へのきめ細かな支援と教室へ戻れるよう段階的な指導</p> <p>・薬物乱用教室、SNS等の使い方教室等の充実</p> <p>・給食や帰り学活の終了時間の厳守</p>
5 特別支援教育 生徒一人一人の理解に努める適切な支援の実践	<p>①生徒一人一人のよさや能力を引き出し伸ばす教育を進める。</p> <p>②保護者との連携を密にし、共通理解のもと特別支援教育を進める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒 「先生は相談したら誠実に対応してくれる」</p> <p>①-2 教師 「一人一人の生徒の状況を把握し、生徒理解に努めている」</p> <p>②-1 教師 「保護者からの連絡や相談に迅速かつ適切に対応している」</p> <p>②-2 教師 「保護者と連携し、生徒の成長を支援している」</p> <p>②-3 保護者 「学校は保護者からの連絡や相談、面談に誠実かつ適切に対応している」</p> <p>活動計画</p> <p>①校内支援委員会の適宜開催や巡回相談を活用し、特別支援教育の充実を図る。</p> <p>②全ての生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進するとともに、引継シートを学年・学校で共有したり、個別の教育支援計画・指導計画を作成し効果的に活用したりする。TTの効果的な指導のあり方を考える。</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (90%)</p> <p>①-2 A (100%)</p> <p>②-1 A (100%)</p> <p>②-2 A (100%)</p> <p>②-3 A (87%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・特別支援教育では、校外行事を工夫したり、巡回相談を活用したりした。小中交流会も3回実施した。</p> <p>・特別支援教育の研修を2回実施し、生徒の状況や対応について職員で共有できた。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>小学校と連携し引き継ぎシートを活用して中学校への移行をスムーズに行う。</p> <p>特別支援学級の生徒が交流学級で学べることを支援する。</p>	<p>・特別支援学級の生徒たちが生き生きと活動していることが分かった。</p> <p>・児童ホームの生徒が大変お世話になっている。丁寧な関わりと密な連携で困難なケースの生徒をしっかり受け入れてくださっていることを大変感動している。</p> <p>・家庭、児童ホームとの連携は必要不可欠である。様々な環境の中で育った子どもたちだからこそ、学校が居心地のよい場所であると思わしてほしいと願っている。三校の交流は、中学生にとっても自信につながる。</p>	<p>・生徒の特性を充分理解し、個のニーズに応じた指導の充実</p> <p>・校内支援委員会の効果的で適切な運用</p> <p>・支援を要する生徒への具体的な手立てを全職員で共有し、実践</p> <p>・迅速でスムーズな報連相の体制づくり</p>
6 キャリア教育 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進 社会的自立に向けた必要な資質・能力の育成	<p>①特別活動を通して、自己肯定感やキャリアプランニング能力を育てる。</p> <p>②「働くこと」の意義を理解し、将来の夢の実現のために計画的・継続的に努力する生徒を育てる。</p> <p>③1学年から計画的な進路指導を行い、自分に適する進路を選ぶことができる力を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 生徒 「将来の夢があり、目標をもって生活している」</p> <p>①-2 生徒 「係等の仕事にまじめに取り組み、学級の役に立っている」</p> <p>②-1 教師 「責任をもって掃除をしている」</p> <p>②-2 保護者 「家庭で手伝いをしている」</p> <p>③-1 生徒 「自分の進路について真剣に考えている」</p> <p>③-2 保護者 「進路や将来のことについて話をしている」</p> <p>活動計画</p> <p>①学級活動で学級目標やルールを作成したり、学級の問題を話し合いで解決したりする。SDGsを視点とした委員会活動を主体的に行う。</p> <p>②各教科等でキャリア教育の視点を取り入れ、キャリアパスポートを効果的に活用する。</p> <p>③3学年間を見通したキャリア教育全体指導計画を見直し、キャリア教育に関する講演会を実施する。三者面談を有効に活用する。</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 B (72%)</p> <p>①-2 A (90%)</p> <p>②-1 A (90%)</p> <p>②-2 C (61%)</p> <p>③-1 B (81%)</p> <p>③-2 A (86%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・学級活動の研究授業を4回実施し、学級会(話し合い活動)ができるようになった。</p> <p>・2年は職場体験学習ができなかったので3学期にキャリア教育講演会をした。3年は2学期にキャリア教育講演会をした。学ぶ意義や進路を考える機会が十分とはいえない。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>生徒が学校や学級のために一人一役で活動するなど、生徒会や各委員会を活性化しSDGsを基盤にさらに推進する。</p>	<p>・新型コロナで学校外での体験ができなかったようだが講演会を開催するなど工夫されていたことがよい。次年度は職場体験等ができると思う。</p> <p>・生徒会や各部委員会が活発に活動されているのを知りうれしく感じた。</p> <p>・将来の夢、目標の指標に一躍を担う活動が増えることを望む。コロナ禍で体験学習の場が少なくなったが、社会の一員としての自分を考える場所を想像できる生徒になってほしい。</p>	<p>・1年時から計画的な進路指導による適性と進路選択</p> <p>・職場体験学習を工夫し、実施する。</p> <p>・SDGsに対応し、生徒主体の委員会活動の充実</p> <p>・体験活動やボランティア活動の充実</p> <p>・あわ文化担当を決める等、地域と連携して総合的な学習の充実・工夫改善</p> <p>・川中祭等の様々な機会に発表の場の設定(英語弁論や科学体験等)</p>
7 開かれた学校 家庭・地域との連携	<p>①保護者・地域への情報提供をきめ細かに行う。</p> <p>②地域や関係機関と連携し、信頼関係を構築する。</p> <p>③コミュニティ・スクールの体制を整える。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者 「学校は情報提供(お便り、マチコミ)が適切である」</p> <p>①-2 生徒 「連絡プリントを確実に家庭に届けている」</p> <p>②-1 保護者 「学校は家庭への連絡やPTA、地域との連携ができている」</p> <p>活動計画</p> <p>①学年だより、個別メール、ホームページ等を充実させ、必要な情報を保護者、地域と共有する。</p> <p>②PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。また、地域の人材を活用したり、地域の行事に参加したりする。</p> <p>③コミュニティ・スクールの体制を整備し、学校がめざす姿を地域と共有する。</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (85%)</p> <p>①-2 A (85%)</p> <p>②-1 B (84%)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・学級単位でマチコミで連絡体制が整備できた。マチコミを発信する際は、ペアで確認する。</p> <p>・学校運営協議会を3回実施し、体制を整えることができた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>児童ホームや児童相談所、徳島学院と連携できた。</p> <p>保護者宛のお便りが届いていないことがある。</p>	<p>・徐々にコロナ前の状況に戻りつつあるが、地域から見ると学校との距離が少し遠くなっている。次年度からは学校、保護者、地域の距離が縮んでいくと思う。</p> <p>・保護者や地域も巻き込んで川内町ぐるみのつながりができている。ホームもすっかり受け入れてくださっていることを感謝している。</p> <p>・コロナ禍の3年間だった。生活様式に大きな変化が見られる。子どもたちの生活に学校、家庭、地域との連携、協力は大切である。</p>	<p>・保護者から学校に相談しやす環境づくり</p> <p>・PTA組織の見直しと活動内容の工夫</p> <p>・問題行動や不登校におけるスクールカウンセラーや児童相談所と連携、適切な支援</p> <p>・コミュニティスクールでの活動の具現化</p>

「評定」の基準

A：十分達成できた(100~85)

B：おおむね達成できた(84~70)

C：達成できなかった(69~)

